

受付を済ませるといよいよ「ぼうさい忍者修行」のはじまり



シートを使って、自分だけのオリジナル包帯を作ってみよう



スパー忍者を目指してアルミ缶と牛乳パックを使った「メンタキ」に挑戦!

**楽しく真剣に学んだ「防災術」
白川公園に子どもたち大集合**

11月24日、白川公園で「ぼうさい忍者修行」が開催されました。「ぼうさい忍者修行」は、子どもたちが「忍者」となって地震・火災などの災害から身を守る「術」を楽しく学ぶ修行の場。会場となった白川公園芝生広場には「ぼうさい術」を体験する7つの修行ゾーン、上級忍者を目指す

「スパー忍者修行」ゾーン、中央消防署のはしご車を体験するコーナーが設けられました。

また、中央公民館では、実際に災害が発生した時はどう行動したらよいかを家族一緒に考える「家族のぼうさい会議」も開催されました。

見習い編集員の目

家族のぼうさい会議を取材!

身を守る・知っていることとやれること

高野 眞理子

地震や火事等で身を守る方法では、子ども達は学校で教わっているのか、どんな場所・状況を想定されても大体正しい対処をやっていた。東北の津



地震の時は机の下に机の脚を持ってかくれる

楽しく家族で防災を学ぶ

芥川 道子

災害から、自分や大切な人の命を守るため、10家族総勢22名での忍者修行が始まった。

まずは、地震や大雨などをイメージし、何が来るか考えて行動することをじゃんけんゲームを例に楽しみながらの体験があった。その後は落下物やけむりに注意し姿勢を低く手やカバンなどで頭を守る避難の仕方、机の下への隠れ方、避難先での家族との連絡のとり方などを体験していた。一生懸命に取り組む子どもたちの防災意識の高さに感銘をうけた。

波の時、訓練されていた子ども達が逃げお世話という話が浮かんだ。今回のイベントで防災のハウツーを親子一緒に体験することで共通の認識となり、より子ども達の心に残ったのではないかと思います。

火災・災害時の強い味方

消防団

中央区の消防団員数

(平成25年版消防年報くまもと 平成25年4月1日現在)

360

名

女性の消防団員も11名おり、日々、訓練や予防活動にも力を注いでいます。

消防団って何をしているの?

地域の消防・防災の要として、地域住民で構成されているのが消防団。法律に基づく市町村の消防機関のひとつで、団員の皆さんは、ほかに職業を持ちながら、消防署と共に火災や災害への対応、予防啓発活動等を行っています。

熊本市消防団は、校区単位に分団が設置され、火災等の災害時には、救助・救援活動、避難誘導、警戒巡視などを行います。また、火災や風水害等を想定した防災訓練のほか、どんどや、まつりなどの警備も行うなど、日々地域の安心と安全を守る活動をしています。

「いざ!」というときの助け合い

自主防災クラブ

中央区の自主防災クラブ結成状況

(熊本市危機管理防災総室資料 平成25年2月1日)

131

クラブ

結成率は54%と、まだまだ、これから、の状況です。助け合いの心をもって、クラブ結成促進が求められます。

※結成率は自治会ベースで算出

自主防災クラブってどんな組織?

災害が発生したとき、頼りになるのは、やはり近くに住む地域の皆さん。家族だけでは困難な、消火、通報、避難、救出援護といった初期活動を、主に町内会を単位として住民同士が連携し、スムーズに行うため活動するのが「自主防災クラブ」です。

通常は、防火防災の啓発や訓練の実施、防災資機材の整備、体の不自由な高齢者や障がい者などの見守りを行うほか、地域で身近な危険箇所の確認などを行っています。